

# ENEOS海外渡航支援事業報告書（留学渡航）

2026 年 9 月 14 日

工学部・工学研究科修士課程（どちらか○で囲む）

所属学科・専攻・回生 建築学 学科 専攻 2 回生

氏 名 川村 宗生

1. 渡航期間 2025 年 8 月 30 日 から 2026 年 09 月 02 日

2. 渡航先（国・場所・機関等）

フランス、パリ、国立建築大学パリ＝ラ・ヴィレット校（ENSAPLV）

3. 留学で得られた成果（概要）

留学先の ENSAPLV にて、建築設計スタジオの授業を履修しました。セーヌ川近郊に位置する旧ベルシー＝ラ・ラペ（Bercy-La Rapée）冷蔵駅跡地を対象に、長年放置されてきた大規模な遺構を、地域や市民活動へと接続する複合的な文化交流施設へと再生する課題に取り組みました。既存建築やその周辺地域を対象としたリサーチ手法、歴史的価値の保存のあり方、そしてリノベーションにおける介入の境界線について深く考察いたしました。一つひとつの要素に対し、リサーチに基づき論理的な根拠を持たせながらアイデアを具現化していくプロセスを通じて、フランスならではの既存ストックに対する解釈や設計アプローチを実践的に学ぶことができました。

通常的设计スタジオに加え、アート・造形系科目（Démarches plastiques）へも積極的に参加いたしました。都市の痕跡や空間の記憶を記録・再解釈する映像制作、楽焼や土の物性を活かした実験的な立体模型制作、都市空間や建築の陰翳を捉える写真課題など、多様な表現メディアを用いた制作に取り組みました。素材と直接対峙する制作や視覚表現の探求は、身体的・物質的な空間把握感覚を大きく養う良い機会となりました。さらに、これらの課題は現地学生および多国籍な留学生との協働作業を通じて行いました。母語の異なるチームにおいて、フランス語や英語を駆使して互いの美意識や意図をすり合わせ、プロジェクトを牽引・具現化する実践的なファシリテーション能力と協働力を修得いたしました。

また留学期間中に、オーギュスト・ペレの再建計画で知られる世界遺産都市ル・アーヴル（Le Havre）を現地訪問いたしました。画一的なグリッドの中にコンクリートの打放し表現やプレキャスト工法の規格化の美を見出し、壊滅的被害から近代都市思想を結実させた空間構成と、市民の日常に定着した復興の現在地、そしてその保存と継承の実態を確認することができました。

私は今後、本留学で体得した多角的な視点と技術を、大学院での修士研究や将来の実務に活かし、これからの建築・都市を構想し、実践していくことを目指してまいります。最後になりますが、ご支援をいただいた財団の皆様に、心より感謝申し上げます。

4. 奨学金の使途

往復の渡航費の一部として利用した。